

「タブレット端末の利活用の日常化」に向けた 研修担当教員の役割と一考察

湊川祐也（松阪市立三雲中学校）

概要：本校では、生徒 1 人 1 台のタブレット端末を利用することができる環境が整って7年が経過した。恵まれた環境の中、学校全体で教育の情報化に向けて取り組んでいる。今日では公立学校としてタブレット端末を含む ICT 機器の利活用が特別なことではなく日常化している。研修担当教員が中心となり、ICT 機器を 1 つのツールとして教員の授業づくりや校務、生徒の学習活動等に能動的に活用するためのきっかけと継続的な取り組みができるように組織運営を図ってきた。

そこで本発表は、これまでの実践から教育の情報化につながる研修担当教員の役割と取り組みについて事例をあげ、考察する。

キーワード：教育の情報化，研修担当，ツール，ICT 機器の利活用，日常化

1 はじめに

本校は、平成23年より「教育の情報化の取組」を先駆的に進めている。また、平成26年には同市中学校2校、平成28年には校区小学校4校、今年度はさらに同市小学校12校にタブレットが整備される。来年度以降も整備計画が立てられ、平成34年には同市全小学校に整備される予定で市としても「教育の情報化」に向けて取り組んでいる最中である。一方で、すでに学校予算でタブレットを購入し活用している学校も増えてきたり、タブレット貸出制度も導入されたりするなど様々な取り組みも始まっている。これまでの本校での経験からICT機器が整備されるだけではICT機器がツールとして利活用されるようにはならないと感じる。

文部科学省の「学校における ICT 環境整備の在り方に関する有識者会議」最終まとめ(2017)にも ICT 環境整備促進と同時に必要な対応事項として、教員の ICT 活用指導力の向上について手立ての必要性が述べられている。

そこで教員へのWebアンケートによる質問紙調査・自由記述から、本校に赴任してからのICT活用指導力の変容と校内の研修体制の関係性を調査し、ICT機器の利活用が日常化されるに至るまでの組織的な環境づくりについてまとめる。

2 研究の方法

(1) 目的

教育の情報化を推進する学校において、毎年少なからず教員の異動があり、組織構成が入れ替わる中で、学校として継続的に ICT 機器の利活用に取り組むことができる理由について、ICT 活用指導力の変容と研修体制の関係性について考察を行う。

(2) 調査対象

本校の教員 30 名

(3) 調査時期

平成 30 年 7 月

(4) 調査方法

質問紙調査と自由記述

(5) 質問項目

1-1 ICT 活用指導力の変容・理由について

1-2 ICT 活用指導力向上に役に立った場面

【定例会議(注1)の場】

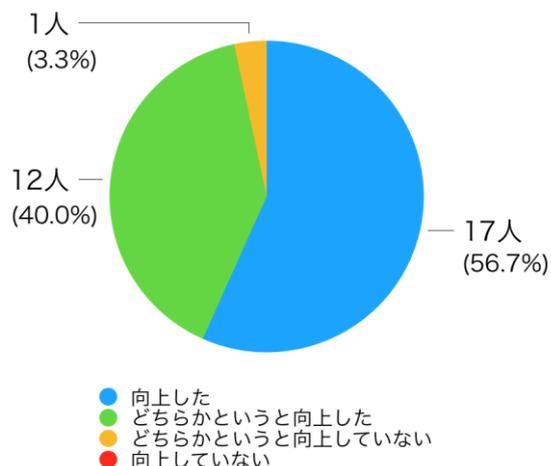
1-3 ICT 活用指導力向上に役に立った場面

【定例会議以外の場】

(注1)定例会議は、職員会議や校内研修会を指す。

3 結果

1-1 ICT活用指導力の変容・理由について



向上していないと回答した教員はいなかった。

また「向上した・どちらかというと向上した」と回答した教員の合算は95%以上に達した。

理由については、以下に示す。(一部抜粋)

- ・周りの教員の協力もあり、アプリケーション(以下「アプリ」という)を使えるようになったから。
- ・実際に触る機会に恵まれ、多様な活用方法があると知り、色々試したいという意欲が湧いたから。
- ・自分が公開授業をしたり、他の先生の授業を観察したりして、どのように役立てるか考えるようになったから。
- ・日常的にICT機器を使用することが当たり前になってきたから。

1-2 ICT活用指導力向上に役に立った場面

(定例会議の場)

- ・会議でタブレットやアプリを活用していることにより、興味と疑問を抱き、聞いた。
- ・ペーパーレス化(資料提示・配布などタブレットを活用)
- ・深い学びとICT利活用について考えること。
- ・授業実践・活用場面の例を共有

1-3 ICT活用指導力向上に役に立った場面

(定例会議以外の場)

- ・情報共有や意見交流の手段が増えた。
- ・「スキル向上」のための共有スペースがある。
- ・機器の使い方やアプリの効果的な使い方等がわからない時に聞ける人がたくさんいること。

4 考察

勤続年数に関わらず、ほぼすべての教員が「ICT活用指導力が向上した」と実感している。勤続年数と回答の種類に相関関係があったわけではなく、同回答も多々あった。このことにより、日常的にそれぞれの教員の段階から向上するための機会の場と環境があると感じている教員が多い。

5 結論

研修担当としてICT機器をツールとして活用する機会を意図的につくり、何ができるかを「見る」場を様々な手段で設けている。そして、使い方をいつでもどこでも「知る」環境づくりを行なっている。また、それぞれの教員が実践したことを発信してもらったり、研修担当が変わりに紹介したりと「共有」している。その結果として、ICT利活用が特別なことではなく日常化されている。

6 今後の課題

毎年教員の異動がある中で、管理職と研修担当を中心に、組織として継続的に取り組むことができるシステムを構築して、基盤を作っていく必要がある。

参考文献

- ・長谷川 元洋, 三雲中学校(2016) 無理なくできる学校のICT活用 学事出版
- ・文部科学省(2016)「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめ
- ・文部科学省(2017)「学校におけるICT環境整備の在り方に関する有識者会議」最終まとめ
- ・文部科学省(2017)次期学習指導要領で求められる資質・能力等とICTの活用について